

▶ 新分析棟 稼働

当社の大阪ラボラトリー(大阪市此花区)内に、分析新拠点が完成し、2021年6月から本格稼働いたしました。

新分析棟(鉄骨造6階建、建築面積:約720m²、延床面積:約4,000m²)は、当社がマテリアルサイエンスおよびライフ



図1 新分析棟外観



図2 クリーンルーム(5F)



図3 細胞培養室(3F)

サイエンスの両分野において、最先端の分析技術を獲得し、より高品質で信頼性の高いサービスを提供し続けるための重要な拠点の一つとなります。

本分析棟5Fには超微量金属不純物定量用のクリーンルームを完備し、マテリアルサイエンス分野の高度な顧客ニーズに対応すべく、自動化設備を始めとした技術イノベーションを推進していきます。

また本分析棟2F/3Fにおいては、中高分子医薬品、再生医療等製品についての専用実験室(前処理室、バイオセーフティ実験室、細胞培養室、機器室など)を設置し、試験法開発から分析法バリデーションの実施、安定性試験や出荷試験などの一連の品質評価を国内外の規制に準拠して実施します。また、技術開発部門と分析実施部門を併設し、両部門が一体となってモダリティの特性に応じて求められる多様なお客様のニーズに対応する体制としています。

当社は高度な分析評価技術を駆使して課題を解決するソリューション型サービスを提供し、今後も引き続きサステナブルな未来に貢献するとともにお客様のニーズにお応えしていきます。

▶ 高圧ガス吸着測定装置の導入

混合ガスから二酸化炭素など目的の成分ガスを取り出す「ガス分離・回収」は、カーボンニュートラルの実現や、エネルギー問題への取り組みにおいて重要な技術であり、近年、注目を集めています。ガスの分離・回収方法には、蒸留法や化学吸収法、物理吸着法などがありますが、その中でも、ゼオライトや活性炭などの固体吸着剤を用いた物理吸着法は、他の手法と比べて装置構造が簡易であるというメリットに加え、高性能な材料開発による大幅なコスト低減が期待されることから、精力的に研究・開発が進められています。

固体吸着剤の吸着性能評価法としては、吸着等温線測定が広く利用されます。吸着等温線は、一定温度下で、固体吸着剤が吸着するガスの量と圧力の関係を表しており、吸着等温線を比較することで、使用条件に適した吸着剤の選定などが可能となります。

当社はこれまでに、大気圧(100kPa)まで

の吸着等温線測定サービスを提供しており、このたび、新たに900kPaの高圧力まで測定が可能な装置(マイクロトラック・ベル社製 BELSORP-Max II -HP)を導入致しました(図1)。本装置で取得したデータ、活性炭の25℃における窒素ガス吸着等温線を図2に示します。これまで行ってきた幅広い温度範囲での測定に加え、高圧条件での測定が可能となったことで、より

多様な条件における吸着量情報を評価できるようになりました。

また、法律上取り扱いに制限のある可燃性ガスを収容するための防爆シリンダーキャビネットも設置しており、メタンガスや水素などの吸着試験を行うことも可能です。これら装置や設備を用いて、様々な条件でのガス吸着量情報をご提供し、ガス分離・回収技術の開発に貢献します。



図1 高圧ガス吸着測定装置の装置外観

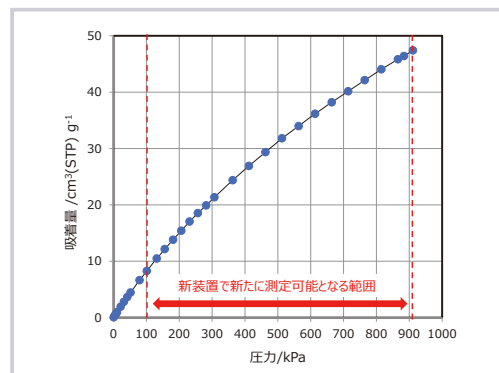


図2 活性炭の25℃における窒素ガス吸着等温線

分析サービス・製品に関するお問合せ

Web <https://www.scas.co.jp/contact/>
 ■ お問合せフォーム ■ 依頼票ダウンロード

☎ 電話 03-5689-1219

☎ FAX 03-5689-1222

✉ メール marketing@scas.co.jp

企業情報

Web <https://www.scas.co.jp/company/>
 ■ 所在地案内 ■ 会社概要 など

SCASNEWS誌に関するお問合せ

✉ メール scasnews@scas.co.jp

☎ 03-5689-1212 ☎ 03-5689-1222

SCAS NEWS 2021-II (通巻54号)

発行 2021.8.27

発行者 株式会社住化分析センター

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-6-17 住化不動産横堀ビル

編集担当 技術・経営戦略室

SCAS Sumika Chemical Analysis Service

はアインシュタインの疑問符です。彼のあくなき好奇心と探求心こそが、宇宙真理発見の原動力だったのかもしれない。

[無断転載禁止]